

お客様へのメッセージ

理事 事業部長
三原 昌章 (サービス事業部)

カソウカをカソクカ

「秋深き、隣は何をする人ぞ」

他所さまのことばかり気にしているサービス事業部三原です。

平素は、弊社の製品・サービスにご愛顧を賜りまして、厚く御礼申し上げます。



いつもニコニコ顔の三原さん

私どもサービス事業部は、弊社の光りものソリューションの一つである「IT インフラ7 (Infra Seven)」を中心に、サーバーの仮想化/統合やセキュリティ、ネットワーク構築、LCM (Life Cycle Management) 等のサービスを、幅広くご提供しております。

特に、サーバーの仮想化/統合につきましては、省電力/省スペース/省コストを実現し、お客さまのITシステムの効率化に大きく寄与するソリューションです。また、仮想化を実現するためには、VMWareやHyper-V等の仮想化OS、高性能サーバー、大容量ストレージ、バックアップソフト等、最新のITスキルが必要とされますが、サービス事業部技術員一同、これらのスキルの習得に日々研鑽を重ねています。

今後も、サーバー仮想化/統合のご提案を加速して推進し、JBグループの

スローガンである「ITの可能性を未来の可能性に」の実現を目指して参ります。

お客さまのITシステムの発展に貢献し、更にご満足頂けます様に、努力して参りますので、今後とも、お引き立てのほどを宜しくお願い申し上げます。



ソルネットのフォーカスソリューション
ITインフラ Initiative seven

エコテクノ2012

ご来場ありがとうございました。



JBグループブース 大盛況！？

10月11日～13日に開催された西日本最大規模の環境見本市「エコテクノ2012」に参加させていただきました。

今回は264社325ブースと昨年を上回る規模で開催され、木・金・土3日間の総来場者数も27,588人にもものぼる大盛況ぶりです。

今回、弊社からは環境負荷低減への貢献に向けた取組みを知って頂くために、

- 産業廃棄物処理企業様向基幹統合パッケージ
「グリーンプラネットパック」
- ITインフラソリューションによる環境負荷低減サービス
「環境インフラソリューション」

を中心にご紹介し、共同出展のグループ会社【JBサービス】からは、

- PoE給電によるLED照明ソリューション
- エネルギー使用量の見える化サービス 「JB-ECOセンシング」

のご案内と実演を行い、どちらも大変ご好評いただきました。

中でも弊社イチ押しの産廃企業様向け「グリーンプラネットパック」については、九州各県からのお客様がたくさん見に来てくださった為、担当の小迫は次から次へにご紹介しながら、具体的な運用についての質問に一つずつお答えしていました。



グリーンプラネットパックをご紹介中の小迫さん。

ご存じのとおり北九州市は、公害から子どもたちを守るために始まった住民運動をきっかけとして、市民・企業・行政が一体となった公害対策を早くから行ってきた地域です。その後も環境を守る北九州市の取組みは続けられており、平成23年12月には国から「環境未来都市」の選定を受け、「環境対応」だけでなく「超高齢化対応」「国際環境ビジネス」への取組みを行っています。

そんな北九州市の環境マスコットキャラクターが「ていたん」です。名前は「低炭素社会」をイメージし、鼻と口で「エコ」を表現しています。エコテクノ会場内をあちこち歩き回ってアピールしながら「ていたん」は、ふるさとの北極と家族を守るため、温暖化をストップする努力を続けているのです。私たちも未来の子どもたちのために、今できる努力をしなくては！と改めて認識しました。



ITは、エコに貢献できます！

12日には、チーフコンサルタントの糸山によるセミナーが開催されました。講演のテーマは「エコノミーとエコロジーの両立によるグリーンITイノベーション」です。こちら事前予約いただいた遠方のお客様から飛び入りのお客様まで、たくさんの方にご覧いただき、立ち見も出るほどの大盛況でした。

最後になりましたが、ブース・セミナーにご来場いただきました皆様、本当にありがとうございました。お陰様で、たくさんのお客様に弊社ソリューションをご紹介することができ、大変実り多い秋のイベントとなりました。今後は、ますますパワーアップしたソリューションをお客様にお届けすることで、環境負荷低減への貢献ができるよう、より一層の努力をして参ります！

目標達成に向けて

2012年10月19日～20日に、恒例となった“下期キックオフ&秋の管理職研修”を総勢47名で行いました。下期キックオフ実施後、“2012年SOLNET社長方針”の重点施策のひとつである“「らしい社員、らしいチーム、らしい会社」の実践”について管理職者の意識統一を図り、社員をより力強く引っ張っていけるようになることを目的として、以下のテーマを設定し熱いミーティングを実施しました。

【テーマ】

更なるExecuteを促進するために、

SOLNET - Culture（文化）、Business、System（制度）の未来創造

～ “らしさ”考 ～

前回の研修までは組織横断のチーム編成で、組織の横縦の関係強化を図りましたが、今回は事業部単位に編成にすることで、事業部ごとにより深くテーマを追求できるようにしました。それぞれの職場で入念な準備を行っていたため、開始早々あちこちで意義深く活発な議論が繰り広げられました。この研修をきっかけに、管理職一丸となって社員満足向上に努め、より一層活気のある良い会社にしてくれることを確信しています。

そして最後は、参加メンバーの中で若手である“地理情報ソリューション部”の



恒例となった(?) 決意の掛け声

安藤幸一さんによる、“がんばるぞ！ Ohh！”という決意の掛け声で、一体感を共有すると同時に下期の目標達成に向けた誓いも新たにし、2日間の研修の幕を閉じました。

研修後、競うように“B-1グランプリ 第七回北九州大会”の会場に急ぐ、メンバーの姿が印象的でした（笑）。

(事業管理)

決意新たに。そして、次の世代へ。

来年度迎える新入社員として、昨年同様に3名（女性2名、男性1名）を採用する運びとなり、10月1日に内定式を執り行いました。各事業部長が見守る中での式ということので内定者も緊張の面持ちでした。

今後はグループの内定時教育として、通信教育を受講し、社会人としての心構えを少しずつ養いながら、下期の社内行事への参加を通じ、社員としての意識高揚を図っていきます。



来年度より、お世話になります。

10月1日はまた、今年の新入社員の成果発表会の日でもあります。新入社員は入社後すぐに3ヶ月間のJBグループ合同教育に参加し、JBグループの一員としての自覚を醸成させ、7月よりソルネット社員としての教育を受けます。この教育は「ブラザー」として前年度入社が担当し、公私共に良きアドバイザー・良き兄貴分として接します。新入社員もさることながら、ブラザーも大きな責任を委ねられることで、ともに大きく成長する時期となります。

今年の事例発表テーマは「SNSサイトの創設」でした。当初、なかなか個人差を出せないのではと心配でしたが、ブラザーの指導もあり、それぞれに特色のある報告を行えました。成果発表の前にはデモブースを開設し、お客様に見立てた厳しい先輩たちに実際に使ってもらいながら説明をしたり、質疑にバッチリ答えたりと、目を見張るほどの成長ぶりに教育の成果を確認できました。



大盛況だったデモブースの様子

また内定者もその様子を目の当たりにすることで、「来年の今頃は、自分たちも…」と入社への気持ちを新たにしたいようです。

“ブラザー ⇒ 新入社員 ⇒ 内定者”の関係が構築され、ソルネット文化がうまく伝承されていることを再確認できた一日でした。

(事業管理)

やってみないと分からない！

1. MP式財務分解講座

9月26日、営業、事業管理並びに管理職を中心とした34名を対象に、MP式財務分解講座を開催しました。講義にあたっては、弊社顧問である“税理士法人 富下会計事務所”より、財務アドバイザー：内田 智大様を講師にお招きしました。

今回この講座を開催したのは、「MP (More Popular(より一般的))」という、専門家向けではなく財務に関して若干自信がない経営者や経営幹部向けの方を対象とした、大変わかり易い講座であったためです。

今回弊社の自己判定を行って身につけた知識をもとに、今後はお客様に適合したERPソリューションをご提案できるという意味で、大変役立つ講座となりました。



2. アジア文化講座

J Bグループでは、中国に“JBCN大連”・“JBCN上海”の事業会社が、さらにタイには“JBTH”を事業展開中です。またCSR活動の一環として、中国・内蒙古自治区の“ホルチン砂漠緑化活動”を実施しています。（「そるねつとつうしん vol.3」にてその詳細をご覧ください）

そんなグループ会社の中で、アジアに一番近い拠点として、もっと近隣国の文化を理解したいと文化講座を企画しました。まず初めに中国講座を開講。講師をお招きし、15名が4月から半年間（2回/月）中国文化と簡単な中国語について学びました。

続く10月からの下期には韓国講座を開講し、賑やかな授業がはじまっています。

講師：黄贊(ホアン イユン)先生

日本在住3年、上海出身

(事業管理)



地図データの品質を守る最後の砦

皆様、こんにちは！ 地理情報ソリューション部第3グループの末崎です。
私が所属する部門は、約30年の長きに渡り、株式会社ゼンリン様において、

1. 地図データベース整備システム開発、
2. 地図データ編集システム開発（主にカーナビ）
3. 編集された地図データ検査

等の業務に対し、お手伝いをさせて頂いています。

その中で当グループは 3の工程を担当しており、
主に地図データ検査と検査用ツールの開発を行っています。



左から 中島さん、末崎、長田さん

業務の具体的な例を挙げると、新規開通道路の道路形状が正しいか？ また、SA・PAなどの施設情報が正しく配置されているか？ 高速道路の料金設定が適切であるか？ など、数多くの検査を、手順や条件を忠実に守りながら且つ、漏れなく「見た目確認（目視）」と「検査用ツール」にてチェックしています。

また、この検査は、お客様の地図データ作成における最後のチェック工程でもあるため、その重要性をしっかりと認識し、今後もお客様のご期待・ご要望に応じていけるよう、更なる努力を続けています。
(地理情報ソリューション部 末崎 博文)

メンバー紹介

- ① 職場での役割 ② 業務で気をつけていること ③ メッセージ

■中島 直子さん

- ① グループ運営と検査用ツール開発のプロジェクトリーダーをしています。
- ② 要求仕様をしっかりと整理・理解して仕様漏れがないように注意しています。
- ③ 『お客様第一』の姿勢で、さまざまな要求にもお応えしていきます。

■末崎 博文さん

- ① 地図データ検査のチームリーダーとして、業務推進を行っています。
- ② 地図を使用するエンドユーザーの目線で、検査を行うように心がけています。
- ③ 品質の高い検査を実施するために、さらなる改善提案をしています。

■長田 陽子さん

- ① 地図データ検査員としてまた他検査員へのアドバイザーとして頑張っています。
- ② 予定通りに検査を実施し、納期を守ることを第一に業務を行っています。
- ③ これからも、正確かつ迅速な検査を続けていきたいと思えます。

100キロの先に見えたもの・・・

10月6日（土）～7日（日）に「2012年 第14回 行橋～別府100キロウォーク」が開催されました。このイベントは、行橋正八幡宮を正午に出発し、26時間以内でゴールの別府を目指して歩くというもので、今年も4000人近い健脚自慢が全国から集まりました。チームソルネットは、お客様やサポーターも含めた総勢33名で、完歩を目指し挑戦しました。

国道10号線に出るまでの15キロは、川沿いや海岸のコースです。

36キロの第1CP（チェックポイント:中津駅）の手前で陽は落ち、ヘッドランプをつけた参加者もいたり、皆、黙々と歩き続けました。

そしてまだ半分にも達しない現実を恨み、痛い足を我慢しながら、やっと辿り着いた61キロの第2CPで食べた「肉うどん」がとても美味しく、残る39キロに力を与えてくれましたが、時間は深夜、眠気も襲ってきます。完歩を目指す気持ちが揺らぐ中、リタイアポイントでは救護の大型バスを待つ参加者も、、、

76キロの山香休憩所では待望の「ぜんざい」を頂きました。ここまで来ると、多くの参加者が足を引きずっています。第3CPの手前で夜が明け、別府湾が！！そして、湾の先にはゴールの的ヶ浜公園が視界に入ってきたのです。

第3CPから最後の13.9キロが、想像していた以上に長く、シンドさもピークに。

残り3キロ、2キロ、1キロ。そしてゴールの手前の関係者の声援に涙が溢れてきました。

ゴールでは、チームのサポーターが完歩者を労い、休憩場所と飲み物の準備をして待っていてくれ、午後2時、最後の佐藤中さんを全員で迎え、無事に終えることができました。

関係者の皆さまに、そして支えて頂いた皆さまに、心から感謝を致します。

100キロの先に見えたもの、、、

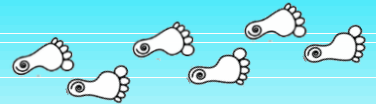
それは、ひとり一人の感動と、参加した全員笑顔でした！！！！

（第二営業部 久保田 伸吾）



チームソルネット。皆さん、お疲れさまでしたあ～。

それぞれの100キロウォーク



サービス事業部

森本 健 さん

初めての参加でした。スタートする前は「歩くだけなので、何てことはない」と思っていたのですが、30キロ地点で想像を超える足の痛みに襲われながらも、我慢しながら歩きました。

50キロを過ぎると、夜間歩行ならでの「満天の星空」で、幻想的な光景を味わいながら、一歩ずつ足を前へ進め、何とか完歩をすることが出来ました。ゴール地点では涙している人も多く、その姿はとても感動的で胸を打つものがありました。とてもハードな2日間でしたが、得るものも多くとても有意義だったと感じています。



営業統括 第二営業部

奥田 文男 さん

今回、100キロウォークという、未知の領域に足を踏み入れました。最初は、一緒に参加したメンバーとワイワイ話をしながら楽しい時間を過ごしていましたが、想像していた以上にひざ、腰、足裏に負担がかかり、進めば進むほど、キツイというよりは痛みとの戦いで、本当に過酷な道のりでした。

無念の途中棄権をしましたが、今の自分の体力・精神的な弱さが分かっただけでも得るものはあったかな、と今は前向きに考えています。ただ、残念?ながら「リベンジ」というお土産が残ってしまいました… (笑)



事業管理 情報システム

寺師 岳陽 さん (サポーター)

今回はサポーターとして参加しました！私はゴールで食事、飲物、シップなどを用意して参加者のお世話をしていました。ゴールした皆さんは疲労がピークに達していて言葉少なでした。それだけ100キロという距離が大変だったのでしょう。

それでも弊社の最後の歩者がゴールをするときには、皆さん総出でお迎えしてとても盛り上がりました。出場者全員が自身のゴールよりも仲間が無事にゴールしたことを喜んでいて、とてもソルネットらしいな～と思いました。

来年は私も完歩して、ゴールにいたいと思います！



若手の成長が楽しみな会社です。

「うちの会社が八幡コンピュータセンター（YCC）として始めた30年前は、新入社員の家庭訪問をしていたんだって！」と先日初めて聞きました。その頃は社内運動会など、社員と家族間の交流が盛んに行われていたことは知っていたのですが、家庭訪問にはちょっと驚きました。聞けばYCCが新しい会社でまだ実績もなかったため、「上司から直接、家族にお話することでご理解・ご安心いただく」という目的だったそうです。新入社員を仲間に迎え入れるための草創期ならではのサポートといえるかも知れません。

時代は変わり、現在は2年生社員がブラザーとして、新入社員ひとり一人をサポートしています。本号でもご紹介した新人成果発表会では多くの先輩社員が発表を温かく見守っているのに対し、ブラザーは厳しい表情です。彼らは夜遅くまで作業や打合せを繰り返して、課題に取り組み、昼休みは笑顔で連れ立って食事に出かけるというように、新入社員を全方向からサポートしているため、本人以上に緊張しているのです。発表最後の「先輩のようなブラザーになりたい」という新入社員の感想が、ブラザーに寄せる感謝と全幅の信頼を物語っています。

「会社づくりは人づくり」といいます。若い頃にこのような経験をして育つ彼らと共に、もっともっと素敵な会社にしていけることを楽しみにしています。

(Y.N)



真剣な面持ちで、中村さん(右)の説明を聞くブラザーの佐藤さん(左)。

編集後記

弊社の建物や敷地の清掃をお願いしている岩田さんは、廊下のあちらこちらに季節の花を飾って下さるのですが、先週は、お花と一緒にさわやかな香り（金木犀）を届けて下さいました。いつもとは違う方法で四季を感じることができ、幸せな気分♪

紅葉などの美しい風景、そして匂の味覚。日本の素敵なおところを一番堪能できる秋ですが、皆さんはどのように季節を感じていらっしゃいますか？ (K.K)

